特集
〈事例〉

地道な取り組みを丁寧に行い 四年連続で女性会員が増加

公益社団法人
名取市シルバー人材センター
（宮城県）

名取市ＳＣでは、平成29年度から女性会員の増加が続いており、女性会員比率が大幅にアップした。特別な拡大策を展開したわけではないが、市広報に入会説明会の日程を掲載してもらうほか、センター公式インスタグラムの開設、事務局の明るく丁寧な対応など、地道な取り組みを積み重ねている。その結果、入会説明会に参加して、入会する女性が増えている。

女性会員比率が大幅アップ

名取市は、仙台駅や仙台空港へのアクセス、自然環境ともに恵まれ、多様な産業集積なども背景に発展。東日本大震災で甚大な津波被害を受けたが、町は復興が進み、近年では人口が増加している。

名取市ＳＣは、令和三年度に設立三十周年を迎えた。コロナ禍に伴う景気・雇用の悪化により契約終了や受注減といった厳しい事業運営となっているが、今年六月にセンター所有の拠点として念願の新事務所が完成。二階建て約一三〇㎡の白を基調とした、安心・安全できれいな建物となり、皆で張り切って事業にまい進している。

会員数は、一時減少傾向にあったが平成二十九年度に増加に転じ、令和二年度は前年度より二十四人増の四百五十一人（男性三百九人、女性百四十二人）となった。男性会員は前年度より二人減ったが、女性会員が二十六人増えた結果だ。

女性会員数については、平成二十九年度から毎年連続して増えており、女性会員比率は平成二十八年度の二三・七％に対して、令和二年度は三一・五％と大きく伸びている。

女性会員増加の背景

太田佳孝常務理事兼事務局長は「女性会員の笑顔と明るさは、センターに活気を与えてくれます。また、男性とは別の視点を持っていると思いますので、意見や要望に応え、活躍してもらうことが魅力あるセンターにつながるものと考えています」と、女性会員のさらなる活躍に期待を寄せる。

女性会員が増えていることについて、明確な要因は見当たらないとしながらも、「入会説明会の女性参加者が増えている」という一つの変化を挙げた。

最近の入会説明会の参加者数は、次の通り。

- ●平成三十年度／八十人（男性五十二人、女性二十八人）
- ●令和元年度／百五人（男性六十四人、女性四十一人）
- ●令和二年度／九十八人（男性四

十八人、女性五十人）

令和元年度に女性が大幅に増えて、令和二年度は男性を上回った。これは、同センターで初めての出来事という。

「市で行っていた遺跡発掘作業が令和二年度に当センターの労働者派遣契約に変更となり、その仕事に就きたいという女性が多く参加したことが一因かもしれません。また、最近は市広報を見て入会説明会に参加したという人が多いので、掲載されたことが要因とも考えられます」と太田事務局長。

特別な対策は実施していないと言うが、ここ数年は近隣センターの取り組みに学んだり、『月刊シルバー人材センター』の掲載事例を参考にしたりしながら取り入れたこともあるので、それらの相乗効果といえそうだ。

主に、以下のことを行っている。

令和三年六月に完成した名取市SCの新事務所（写真上）。現在、業務を担う職員は計六人。その半数が女性職員となっている（写真右）

①「広報なとり」への掲載

平成三十年度から毎月、入会説明会の予定を「広報なとり」に掲載してもらっている。「近隣のセンターから教えてもらい、市に協力を依頼しました。以来、広報を見て話を聞きに来たという人が、男女ともに増えています」と太田事務局長。

また、地域紙の河北新報にも記事掲載の協力を依頼し、不定期ではあるが掲載されることがある。

②地元FMに出演

コミュニティラジオ放送「エフエムなとり」の協力で、入会説明会の周知をはじめ、旬の話題コーナーなどの出演依頼を受けて生放送（平成二十九年）や、録画放送（令和二年）で事業内容の紹介と会員募集を呼び掛ける機会を得た。

③公式インスタグラムの開設

令和元年度に公式インスタグラムを開設。会員の活動や独自事業などを写真中心に伝えている。

太田事務局長は「発信し続けることで少しでも興味を持ってもらえたら、という思いで始めました。高齢者と暮らすお子さんやお孫さんの目に留まれば〝後押し〟をしてもらえるのではないか、〝次のシルバー世代〟にも見てもらえたら、という期待もあります。また、センター同士でフォローし合う中で、他センターの活動状況を知ることができ、参考にしています」と期待と効果を話す。

④入会説明会での工夫

近隣センターに学び、情報開示の必要性を感じて、入会説明会で最新の就業情報を案内することにした。

⑤事務局は明るく丁寧に

偶然かもしれないが、女性会員は、事務局の女性職員の増加と比例するようにして増えてきた。女性職員は徐々に増え、現在では男女同数（各三人）となっている。

数年前、入会したばかりの会員から「事務所に入りづらい」との声が聞かれたそうだ。センターの

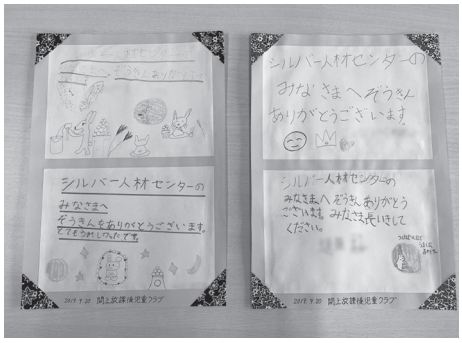
〝顔〟ともいえる事務局の雰囲気や対応が悪ければ、入会をためらう人は足が遠のいてしまうだろう。また、既存の会員に口コミで知り合いを誘ってもらえる組織になるためには、事務局の対応がやはり大事だと実感し、「明るく　親切　丁寧」をモットーに接することを心掛けてきた。そうした中で女性職員が増え、雰囲気も変化。その後も、「あいさつや話をするときは相手の目を見て行う」「勇気を出して問い合わせや相談をしてくれる市民に、親身になって対応する」「相談された内容には、できるだけ迅速に対応する」「受注できない依頼でも簡単に断らず、次につながる断り方をするように努める」「仕事の依頼に対して感謝する」などを、職員間で共有している。

⑥夫婦会員は二十組

ある男性会員が運転する車の助手席に奥さんをよく見掛けることから、「奥さまも入会されてはどうですか？」と太田事務局長が声を掛けると、「私なんか入会しても役に立たない。こんな年寄りなんか」と恥ずかしそうに答えたという。

そこで、その男性会員と同じ仕事ができること、ほかにも仕事があることなどを伝えると、すぐに入会したという。これをきっかけに、夫婦で一緒にいるところをよく見掛ける男性会員の奥さんに声を掛けてみると、入会に至るケースが何度かあった。

令和二年度の夫婦会員は、二十組となっている。



令和三年三月、手芸クラブの代表会員から名取市教育委員会へ、手作り雑巾二百枚を寄贈した（写真上）。写真左は、雑巾寄贈のお礼として児童から届いた手紙

女性会員の主な就業

女性会員の就業は、清掃作業が圧倒的に多く、ほかには施設の受付、調理補助などがある。

福祉・家事援助サービス事業は、就業会員十人のうち七人が女性会員で、ワンコイン（五百円）サービスも実施している。しかし、コロナ禍であることも影響しているのか受注は伸びず、最近の就業内容は家事援助では清掃や子育て世帯の食器洗いなど、ワンコインサービスでは高齢者宅のごみ出しとなっている。

今後、介護・子育て支援分野での活躍も目指して、市や関係機関と話をし、会員の意向調査をしながら、就業機会の開拓・拡大を進めていく考えだ。

独自事業とサークル活動

名取市SCでは、女性委員会などは設置していないが、女性会員六人が所属するサークル「手芸クラブ」が生き生きと活動している。独自事業で手作りマスクや手芸品の製作販売を行うほか、ボランティア活動として手作り雑巾を市役所などを通じて保育所や児童センター、小・中学校に寄贈。子どもたちからお礼の手紙が届き、会員のモチベーションが上がっているという。これまでに累計千枚を寄

贈しており、河北新報にもこの活動が取り上げられた。コロナ禍の現在は、一堂で集まる機会は減っているが、それぞれの都合の良いときに、事務所で自主的に製作を行っている。

サークルは、ゴルフ、歌謡愛好会（コロナ禍で活動休止中）のほか、令和三年秋に健康マージャンの発足を計画。事務所内に活動スペースができたこともあり、仕事以外に会員が楽しめる機会も少しずつ増やしたいとしている。

名取市SCの独自事業「会員さん家の自家製野菜」。事務所前に野菜を並べ、お客さんと話をしながら販売している

サークル活動は、「明るく　楽しく　ケチをつけない　悪口を言わない　自主的に運営する」が基本で、事務局では組織づくりのアドバイスや場所の確保、運営に関する相談に乗ることで支援している。

名取市SCの会員の平均年齢は、令和二年度で七十三・六歳。八十歳以上が六十三人と、高年齢化が進んでいる。このことから、無理のない就業の提供やサークル活動などにも、引き続き注力していく必要性を感じている。

また、「会員さん家の自家製野菜」と名付けた野菜販売の独自事業が、会員にも市民にも好評を得ている。事業化のきっかけは、野菜作りをしている会員が「事務局で食べてください」と持って来てくれたこと。独自事業での販売を提案したところ、当初は消極的だったが、売り上げは肥料や種、苗などの購入の足しにしてはどうかと事務局で提案すると話がまとまった。

価格設定、袋詰め、値札貼り、売れ残りの片付けは野菜を提供する会員が担って、販売は職員が担当。毎週月・木曜日にセンターの事務所前で販売している。就業会員は六人、そのうち二人が女性会員だ。

得意客が少しずつ増えて、販売の際に会話もできるようになってきた。そうした機会を積み重ねることで、センターを身近に感じてもらえるように取り組みながら、関心を持ってくれた市民には時機を見て入会を勧めてみようと考えている。

市民に〝良い団体〟と思ってもらえる運営を

女性、男性ともに会員拡大に努めながら、今後について太田事務局長は次のように語った。

「一人でも多くの市民から〝シルバー人材センターは良い団体〟と思ってもらえる運営を地道に行っていくことに努めます。そう感じてもらえることが、次の世代（子、孫）に受け継がれ、持続可能な団体として生き残れると考えています。事務局では、自分たちの仕事が多くの人に喜ばれるよう努力し、精進していきます」。

（増山美智子）

事業運営状況　（平成28年度〜令和２年度）

年度	会員数 男	会員数 女	会員数 計	粗入会率	就業実人員（延人員）	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	人	人	人	%	人（人日）	%	件	千円	%
平成28	286	89	375	1.7	337（49,368）	89.9	1,722	195,658	32.8/67.2
29	300	104	404	1.8	348（50,357）	86.1	1,768	202,424	32.6/67.4
30	305	110	415	1.9	415（49,495）	100.0	1,743	207,365	33.0/67.0
令和元	311	116	427	1.9	354（47,939）	82.9	1,741	212,047	33.0/67.0
2	309	142	451	2.0	367（47,053）	81.4	1,547	210,665	38.0/62.0

※受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象
※就業延人員は令和２年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む